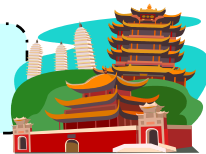


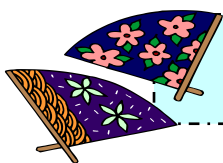
～品川史跡めぐり～



三谷八幡神社

旧小山村字三谷（山谷とも書く。現荏原3～5丁目付近）の鎮守で、元禄年間（1688～1704）に、石井助太夫という人が発起人となり、小山八幡神社から分社したという。左隣にある金山地藏堂は、小山村の旧家石井・伊藤両家が九品仏の浄真寺（世田谷区奥沢）に願をかけて成就したので、ここに地藏菩薩を祀って感謝の意を表したと伝えられる。

地藏堂の入口に3基の庚申供養塔と馬頭観世音供養塔がある。庚申供養塔はそれぞれ正徳2年（1712）、享保4年（1719）造立のものと、元禄年間に建てられたものを昭和32年（1957）に再建したもので、いずれも正面に青面金剛像を刻んでいる。この馬頭観世音供養塔は銘文から欠けた供養塔を昭和29年（1954）に再建したものと判る。



～地名の由来～



その名の由来をひもとけば、街は古の姿を現し
私たちは積み重ねた時の落景の上にたつことを知る

シリーズで区内の地名を紹介しています

《かむろ山（かむろやま）》

遊女小紫のかむろ（遊女の使う幼女）が暴漢におそわれ、逃げきれずここにあった池に身をなげて死んだことから名がついたといわれている。

《大井（おおい）》

大井の地名が初めて文献にみえるのは延喜7年（907）の延喜式で、当時すでに官道の宿駅になるほどに繁栄していたものと思われる。地名の由来は諸説あるが大きな井戸があったという説が有力で、いずれも井戸との関わりが深い。